



# 少年センターだより

令和6年9・10月号 (第432号)



毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく！ 第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話、家族の輪

## 大人が変われば子どもも変わる

7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に伴い、長崎県では「ココロねっこ運動強調月間」が展開されました。ココロねっこ運動とは、子どもたちの心の根っこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。平成13年から「ココロねっこ運動」が始まりました。その頃は、全国的に少年犯罪が多発していた時期です。そこで、大人のあり方を見直そうと「ココロねっこ運動」が始まったわけです。子どもに訴える運動が基本なのですが、「ココロねっこ運動」は、大人に対して、自身の行動を見直すことを訴えており全国的に見ても珍しい運動だと思えます。



市内で行われた主な取組を紹介します。

### ○非行事故防止キャラバン

市内の各健全協と少年センターでそれぞれの小学校区を巡回し、青少年の非行・被害防止の広報活動や集団下校の見守り、危険箇所の点検等を行いました。夏休みに入り、帰宅時刻が遅くなったり水の事故等に巻きこまれたりしないように注意を促す放送を流しながら大村市内全ての学校の校区を回りました。



このキャラバンも各地区たった一度の広報活動かもしれませんが、放送から流れる非行防止の声が一人でも二人でも心に届いてより良い方向にいてくれればと願うばかりです。ご協力くださった方々本当にありがとうございました。

### ○立入調査

少年センターと市安全対策課が中心となり立入調査を実施しました。この調査では、29店舗の書店やコンビニ、DVD等を扱う店舗、カラオケボックスやゲームセンター、携帯電話販売店等を訪問し、県少年保護育成条例に則って営業されているかを確認しました。



## 楽しかった3日間

今年も8月1日の花火大会を皮切りに2日、3日に盛大に夏越まつりが開催されました。天候にも恵まれ星空がきれいな祭りの開催となりました。リズムの良い太鼓の響き、法被をなびかせて踊る若者、かき氷をおいしそうに頬張る子どもたち…そんな楽しそうな景色の裏で、実はたくさんの方々に協力していただき「夏越まつり特別補導」を行いました。



大村市少年補導委員、大村地区少年補導委員、大村市PTA 連合、各高校の先生方総勢321名の協力を得て補導活動を行いました。遅くまで公園等にいる子どもたちに早く帰るように声をかけたり、自転車の無灯火を注意したりしました。大きな問題事案は報告がなかったのですが、23時過ぎに大村駅にいた少年が

警察から注意を受けており犯罪に巻き込まれないかどうか心配でしたという声もありました。

夏越まつりには、「高校生以下は21時まで」という決まりがあります。しかし、21時過ぎても、子ども達がコレモ広場で話をしていたり、大村音頭を一緒に踊ったりといったことがありました。これらのことは、まつりの運営側、周りの大人の責任です。子ども達が犯罪に巻き込まれたり、問題行動を起こそうとしたりすることを防いでやるのが本当の優しさであり、大人が見せないといけない本来の姿です。祭りだから許されるものではありません。もう一度、未来を担う子ども達の為にも考える必要があるのではないのでしょうか。

### < 連載コラム >

気持ちが落ち込んだときや奮い立ちたいとき、私はよく音楽を聴いていました。数え切れないほどの歌と出会ってきましたが、その中で私の人生に大きく影響を与えた歌があります。それはさだまさしさんの「主人公」という歌です。出会いは高校生の頃で、「私花集」というアルバムの中で知りました。さだまさしのファンなら鉄板の1曲です。その中のフレーズ「自分の人生の中では誰もが主人公、私の人生の中では私が主人公」が青年期の私には大きく刺さりました。今ではよくあるテーマで、当たり前と言われそうですが、当時の私には座右の銘のような響きがありました。今でも時々聴きたくなる曲の一つです。

小学校の教員時代は、学級だよりの題名にも使いました。「学級の一人一人の子どもたちがそれぞれ、主人公として、光り輝けるように」との願いを込めてつけました。私の長年の学級通信の定番となりました。子どもたちというより、自分が主人公だと強く思っていただけなのかもしれません。

その私も年月を経て、解釈が少しずつ変わっていきました。「主人公が輝いて見えたのは、周りの多くの人の支えがあったからで、自分一人の力ではない。人との関わりがあったことで主人公でいられたのだ」と。若い頃は気づかなかった周りの人の存在。見守られ、支えられてきた自分。遅まきながら、周りが見えてきました。いつの頃からか卒業生へのメッセージなど「周りの人を大切にする主人公でいてください」と書き添えるようになりました。

大村市には未来に羽ばたく主人公がたくさんいます。少年センターが関わっている方々はその子どもたちを陰に日向に支えてくださっている方々です。子どもたちのそれぞれの場面で、必要な脇役です。子どもたちが今は気づかなくても、きっとその関わりを理解したり、感謝する日がやってきます。活動を続けることは大変ですが、子どもたちのドラマに彩りを添えてあげてください。

そうでした。その活動を続ける皆さんもまたご自分の人生の主人公でした。時間はあります。これからどのような自分だけのドラマを紡いでいけますか？



青少年に関する相談は少年センター(月~金 8:30~17:15)へ

☆相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263

☆ Eメール相談 : [kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp](mailto:kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp)